

2019年12月11日

三田市長 森 哲男 様

三田市民病院を守る会
宝塚医療生活協同組合・三田支部
三田市小野
代 表

三田市民病院と済生会兵庫県病院の連携協議の内容を明らかにすること
(申し入れ)

三田市民のいのちと地域医療をまもるためにご奮闘されていることに敬意を表します。

2019年7月23日付の報道では、「三田市と神戸市北区という旧有馬郡で、急性期医療を担う広域基幹病院の枠組み作りを進める。規模は450～500床を考えている。本年度中には、構想の枠組みを示したい」と森哲男市長が表明されました。

その後、11月には北神・三田急性期医療連携会議が設置され、両地域の中核病院（三田市民病院・済生会兵庫県病院）の診療機能、診療体制等の課題の抽出と解決方策を検討項目にあげています。

神戸大学は、新専門医研修制度に対応できる拠点病院や一定の症例が集まる病院をつくることを、「医師等、医療人材の確保およびキャリア形成を一体的に支援し」「核となる研究・教育のできる拠点医療機関づくりを進める」として、大学ホームページでの医学部長あいさつで表明しています。

今回の連携協議は、こうした神戸大学医学部の意向を汲んだ医師確保のために、両病院の間での医療分化や医師と診療科目の集約をすすめているのではないですか。

第1回連携会議で配布された資料3では、「小児科救急医療、周産期医療について」が連携の課題になっていますが、三田市民病院の小児科や産婦人科の医療機能に変質することはないのですか。三田市が人口減少局面に入ったこともあり、市民病院の小児科、産婦人科の機能存続と充実が市民の重要な要求になっています。

しかし、市民には正確な情報提供がなく、市民病院をめぐって何が動いているのか全く分かりません。市民の命を24時間365日守り続けている市民病院のありかたを、市当局が一方的に変えてはいけません。

連携協議の内容を市民に直ちに明らかにし、正確な情報を提供することが必要です。

この申し入れにもとづき、本会との懇談の場を速やかに設けることを申し入れするものです。